

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 最終更新日 | 2016年(平成28年) 4月4日 |
|-------|-------------------|

## 2016年度(平成28年度)学校評価自己評価表

|          |    |             |
|----------|----|-------------|
| 新市中央中学校区 | 校番 | 福山市立新市中央中学校 |
|----------|----|-------------|

### I 福山市のめざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

### II 前年度の学校関係者評価を踏まえた改善点

特になし

### III 中学校区

#### 1 めざす子ども像

主体的に学び合う児童生徒

#### 2 研究主題及び主な研究内容

(研究主題) 主体的な学びを促す教育活動の推進  
～考え表現する活動を通して～  
(研究内容) 国語:「読むこと」(説明文教材)の単元指導計画の作成  
算数・数学:筋道を立てて考え、表現する力をより高めるための単元指導計画の作成

#### 3 現状(成果及び課題)

##### (1) 児童生徒

<確かな学力>  
昨年度の「基礎・基本」定着状況調査結果(以下「県調査結果」)では、小学校3校のうち1校は全てが県平均を上回ったが、他の2校の内1校は国語のタイプIのみ上回り、1校は国語(タイプI・II)と算数のタイプIが上回っている。中学校は国語のタイプIのみが上回っている。全体としては、昨年度より改善しているものの、総じて厳しい状況である。したがって、基礎学力の定着と論理的思考力の向上が、引き続き、課題である。

<豊かな人間性>  
県調査結果では、自己肯定感は小学校2校が1項目のみ県平均を上回っている。規範意識は小学校2校と中学校が県平均を上回り、全体的に改善されてきている。したがって、自己肯定感の向上が、引き続き、課題である。

また、「新市スタンダード」の生活4項目では、3校が4項目とも90%を超え、他の1校も2項目が90%を越えるなど、全体的に改善されてきている。

<健康体力>  
新体力テスト結果では、小学校1校以外は県平均を下回る種目が多い。共通して課題がある種目は、「握力」、「長座体前屈」である。したがって、筋力や柔軟性の向上が課題である。

<福山への愛着>  
県調査結果では、「地域や子供会などの行事に参加しています」は、すべての学校で県平均を大きく上回っている。また、「自分の住んでいる地域のことが好きです」は、小学校3校は上回っている。これは、小学校3校において、教科や総合的な学習の時間において、ふるさと読本を用いた学習や地域の方との交流等が積極的に進められている成果である。中学校では充実を図ることが課題である。

##### (2) 授業

校区の研究テーマ「主体的な学びを促す教育活動の推進 ～考え表現する活動を通して～」のもと、昨年度は、校区全体で、授業づくりの講話を聞いたり、算数科学習指導案(新市小)検討をしたり、公開研究会(新市小)に参加したりするなどの研修を行った。それらを踏まえて、各校で、それぞれの現状に応じた授業づくりを進めてきた。

その結果、児童・生徒は、課題に対して、自分の考えを持ち、表現したり、それに対して修正や付け加えの意見を出し合ったりできるようになってきた。今後は、出し合った意見に対して質問をしたり、意味づけや分類・整理をしたりすることができる主体的な学びのある授業に取り組んでいく必要がある。

### IV 自校

#### 1 学校経営方針

##### (1) 学校教育目標

豊かな心を持ち、主体的に問題解決に取り組む生徒を育成する。

##### (2) 自校の使命(ミッション)

「夢を描き、その実現に向けて努力し続ける生徒」を育て、生徒・保護者及び地域社会の期待に応える学校づくりを推し進める。

##### (3) 自校の将来像(ビジョン)

「この学校で学べてよかった」「この学校に行かせてよかった」「この学校で働けてよかった」といわれる学校

- 1 確かな学力と豊かな心を育む文武両道の学校
- 2 豊かな人間性と日々研鑽に励み協働する教職員
- 3 マネジメントサイクルを活用して保護者・地域とともに歩める学校

#### 2 研究主題及び主な研究内容

(研究主題) 思考力・表現力の育成  
(研究内容) 自分の考えを伝え合うような活動をどのように仕組むか

#### 3 現状(成果及び課題)

##### (1) 児童生徒

<確かな学力>  
県調査結果では、国語のタイプIのみが県平均を上回っている。全国学力・学習状況調査では、すべての教科で全国平均を下回っている。したがって、基礎学力の定着と論理的思考力の向上が、引き続き、課題である。

<豊かな人間性>  
県調査結果では、自己肯定感は県平均を下回り、規範意識は上回っている。したがって、自己肯定感の向上が、引き続き、課題である。また、「新市スタンダード」の生活4項目では、すべて90%を超え、全体的に改善されてきている。

<健康体力>  
新体力テスト結果では、県平均を下回る種目が昨年度より増えた。課題がある種目は、「握力」、「長座体前屈」「持久走」である。

<福山への愛着>  
県調査結果では、「地域や子供会などの行事に参加しています」は、県平均を大きく上回っているが、「自分の住んでいる地域のことが好きです」は、少し下回っている。教科や総合的な学習の時間において、ふるさと読本を用いた学習の充実を図ることが課題である。

##### (2) 授業

「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプランのもと、月1回の校内研修を行いながら、共通に取り組んできた。その結果、「授業の流れの提示」は90%、「授業の流れがわかる板書」は71%、「自分の考えを伝え合うような活動を仕組む」は71%の教師がそれぞれ肯定的な回答をしている。今後は、校区の育てたい資質・能力を付ける授業づくりに努める。

#### 4 めざす授業の姿

- ・生徒が自ら考え、学び合う授業
- <考える力> 比較、分類、関連する力  
自ら判断し、意思決定する力  
相手が納得できるように分かりやすく伝える力

V 目標・取組・評価指標等の設定と評価

| 市重点<br>目標               | 年目 | 中期経営目標                             | 重点 | 分類 | 短期経営目標                                     | 目標達成に向けた取組                                   | 評価指標   | 10月1日<br>□指標にかかる取組状況<br>◎改善方策 | 力<br>評価 | 達成<br>評価 | 2月末<br>□指標にかかる取組状況<br>○短期(中期)経営目標の達成状況<br>◎改善方策 | 力<br>評価 | 達成<br>評価 | 総合評価 |
|-------------------------|----|------------------------------------|----|----|--|--|--|-------------------------------|---------|----------|---|---------|----------|------|
| 確かな<br>学力               | 4  | 基礎学力をつける<br>とともに、思考力・<br>表現力を育成する。 | ★  | 継続 | 思考力・表現力を<br>育成する。                          | どのように考えるの<br>か、表現するのかを、<br>意図的・継続的に指導<br>する。 | 比較・分類・関連<br>付けて考える生徒<br>45%。<br>分かりやすく伝わ<br>るよう工夫してい<br>る生徒40% |                               |         |          |   |         |          |      |
|                         |    |                                    |    | 継続 | 「新市スタン<br>ダード」の学習5項<br>目の徹底を目指す。<br><校区共通> | 教師による指導(全<br>体・個別)と生徒会委<br>員会の取組を連動させ<br>る。  | 準備90%<br>チャイム100%<br>話を聞く90%<br>姿勢85%<br>家庭学習65%               |                               |         |          |   |         |          |      |
| 豊かな<br>心                | 1  | 基本的な生活習慣と<br>規範意識を育てる。             |    | 継続 | 「新市スタン<br>ダード」の生活4項<br>目の徹底<校区<br>共通>      | 教職員による指導(全<br>体・個別)と生徒会委<br>員会の取組を連動させ<br>る。 | 挨拶95%<br>言葉づかい95%<br>身だしなみ100%<br>掃除90%                        |                               |         |          |   |         |          |      |
| 健やか<br>な体               | 1  | 部活動を充実させ、<br>やる気を育てる。              | ★  | 継続 | 部活動の活性化<br>を図る。                            | 顧問が指導に付くと<br>ともに、顧問と部長の連<br>携を密にする。          | 部活動に積極的に<br>参加する生徒<br>80%                                      |                               |         |          |   |         |          |      |
| 力量あ<br>る教職<br>員         | 1  | 教職員の授業力を<br>高める。                   | ★  | 新規 | 教職員の授業力<br>を高める。                           | 個人のアクションプラ<br>ンに基づいて、日々、<br>授業改善を図る。         | 授業力が向上した<br>教職員100%  |                               |         |          |   |         |          |      |
| 市民か<br>ら信頼<br>される<br>学校 | 1  | 保護者や地域から<br>信頼される学校に<br>する。        |    | 新規 | 学校の情報を保<br>護者や地域に積<br>極的に発信する。             | 学校便り、学年便り<br>を月1回以上発行する。                     | 学校便り、学年便<br>り子どもがわか<br>る保護者<br>90%                             |                               |         |          |   |         |          |      |

[達成評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準                  |
|----|-----------------------|
| 5  | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた   |
| 4  | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた   |
| 3  | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた  |
| 2  | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった   |
| 1  | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった |

[プロセス評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準   |
|----|--|
| 5  | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた      |
| 4  | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた          |
| 3  | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた    |
| 2  | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決をあまり図ることができなかった |
| 1  | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決を図ることができなかった     |

[総合評価]

| 評価 | 基 準             |                |
|----|-----------------|----------------|
| 5  | 100%以上の達成度      | 十分に目標を達成できた    |
| 4  | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた     |
| 3  | 60%以上80%未満の達成度  | ある程度目標を達成できた   |
| 2  | 40%以上60%未満の達成度  | あまり目標を達成できなかった |
| 1  | 40%未満の達成度       | 目標を達成できなかった    |